



# 地域医療支援センターだより

## 年度末のご挨拶



地域医療支援センター長  
内科診療部長

山端 潤也

春暖の候、皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

当院においては、秋冬期間、とりわけ本年1月以降、満床に近い状況が続き、緊急・重症の方以外の入院の受入れが困難になり皆様にはご迷惑をおかけしました。

例年の傾向に加え、当地域でも新型コロナウイルスの拡がりにも影響を受けました。地域の先生方やご施設でも対応にご苦労されているかと拝察いたします。

昨今の情勢から、地域の先生方、ご施設と「地域で患者さんを診ていく」体制が益々重要となってくると感じております。

先生方からの「紹介」及び当院からの「逆紹介」をさらに深め、垣根の低い「顔の見える関係、声の聞こえる関係」を築いていきたいと思っております。

2021年度も大変お世話になりありがとうございました。

新年度も宜しくお願い申し上げます。

## <紹介・逆紹介の充実をお願い申し上げます>

普段先生方にご高診いただいている患者さんで、緊急などで当院を受診される患者さんが多くいらっしゃいます。特に入院された際など、**かかりつけの先生に普段の診療状況をお尋ねすることがある**かと思えます。その際には、**紹介状の形でのご提供**をお願い申し上げます。先生方からは「何気ない、些細に」思われる情報でも、ご処方ひとつの根拠でも、当院での加療には大きな情報となることが多々ございます。お手数とは存じますが、ご高配をどうぞよろしくお願い申し上げます。さらに今後、先生方にかかりつけ・ご紹介の方はもちろん、**安定した患者さんを、身近で通院可能な先生に当院からご紹介（逆紹介）**することが増えるかと思えます。

「**普段落ち着いているときは地域の先生にご高診**」いただき→「**何かあれば能登総合病院にご紹介**」→「**落ち着けば地域にお戻りする**」のプロセスを確立したいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# みなさん、鼻水はでますか？



耳鼻咽喉科  
熊井 理美

突然ですが皆さん、鼻水はでますか？春の時期には花粉症、寒くなってきたら風邪をひいて、最近ではコロナに罹って、など人によっては年中鼻水が続いていることも少なくないと思います。また、一言で鼻水といっても蓄膿症や花粉症、はたまた鼻水かと思っていいたら実は髄液（脳を浮かせている液体）だった、など原因も様々です。その鼻水、みなさんはどうしていますか？ちゃんとかんでいますか？鼻水を普段からすすっているとどうなるでしょう？

## 「鼻水が引き起こす様々な症状」

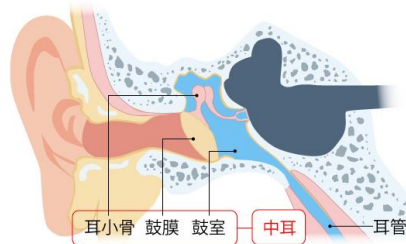
鼻水はやはりきれいではありません。どのような原因であっても、鼻水には空気中の菌やほこりなどがついていきます。それをすすっていると喉に流れていく。これも問題です。鼻水が喉の奥に入ってしまうと咳が出る、ひどいときには肺炎の原因になるか

もしれず注意が必要です。

加えて、鼻水をすすっていると耳にも異常が出てくる場合があります。それには耳管という鼻の奥と耳をつなぐ管が関係してきます。耳管は普段、耳抜きなどにより開閉し耳の中の圧力を調整しています。その管がきっちり働くことにより高い場所や地下など、気圧が変わる際におきる耳の詰まった感じ、痛みがないように調節しているのです。

しかし、普段から鼻をすすっているとこの管の働きが悪くなってしまう。それにより耳の圧力がうまく調節できないため聞こえが悪くなる、声が響くように感じる、耳の中に鼻水が入り痛みがでるなど様々な症状をきたすのです。さらに悪いことに、鼻をすすっていると耳の中の圧力が下がり、鼓膜が奥に引き込まれることがあります。これを何度も繰り返していると耳垢が耳の奥に入り込んでしまう、といったことも起こります。

これは一度起こると大変です。耳の奥で耳垢が増えてしまう。ひどい場合は耳垢が頭と耳の間の骨を溶かしてしまう、手術を



しなければ治らない、なんてことまで起こるのです。

## 「たかが鼻水、されど鼻水」

鼻水なんてだれでもあるし、それほど気にならないことも多いかと思えます。しかし、間違ったことを繰り返しているとひどい場合は手術しても元通りには治らないような病気になるってしまうこともあるのです。鼻水は自然と治ることも多々あり、あまり気にならないことも多いかと思いますが、鼻水がでたらしっかり鼻をかむ癖をつけるようにしましょう。

## 耳鼻咽喉科の診療体制について

耳鼻咽喉科外来の診療体制は下記のとおりとなります。

外来日 月曜日～金曜日

受付時間 8時30分～11時30分

※木曜日と金曜日は

10時までとなります。

～循環器内科からの御案内～

# 「薬剤コーティングバルーンによる下肢動脈治療」 ができるようになりました



循環器内科部長  
八重樫 貴紀

平素より地域の先生方におかれましては、多数の患者さんをご紹介いただき、大変感謝申し上げます。特に、石川県のドクターへリ導入や伝送心電図の活用などを背景に、特に能登北部からの急性心筋梗塞、洞不全症候群・高度房室ブロックなどの徐脈性心疾患、心不全患者の紹介が非常に増えております。

さて、今回は「薬剤コーティングバルーン」による下肢動脈治療をご紹介します。

## 「下肢閉塞性動脈硬化症」とは

下肢の「閉塞性動脈硬化症」は、下肢動脈が細くなったり（狭窄）・詰まったり（閉塞）して、下肢に十分な血流が流れなくなることで発症する病気です。これにより歩行時に足がしびれたり冷たくなったり痛くなったりして、長時間の歩行ができな

く（間欠性跛行）なります。人によって足指が腐る（潰瘍・壊死）ことによって足の切断をしなければいけなくなることもあります。

## 「薬剤コーティングバルーン」の導入

当院では平成12年から下肢閉塞性動脈硬化症へのカテーテル治療を開始しました。バルーンのみならずステント留置も行ってきました。しかしステント留置後に血管内の細胞がステントを覆うことにより、本来の血管径よりも細くなってしまふこと（再狭窄）が問題となり、大腿屈曲部（鼠径部）より頭側の腸骨動脈であれば十分に太いのでそれ程問題にはならないものの鼠径部より足側の大腿動脈では、頻回に再治療を要することもありました。そこで薬剤（パクリタキセル）コーティングバルーンが登場し、能登地区でも令和3年10月以降使用可能となりました。これによりステント内再狭窄部位や、鼠径部・膝窩などステントを置きたくない部位などの動脈の壁に薬剤を塗り付けて再狭窄を予防する治療が可能となり、他院での使用成績をみると再狭窄率が約30%↓約10%まで減少するといわれています。



カテーテル治療後



カテーテル治療前



今でも、血管外科依頼で人工血管治療を必要とすることがあったり、膝下の動脈に対するカテーテル治療の効果が不十分であったりといったり、種々の状況で対象とならない場合もありますが、長時間の歩行が困難になったなどの症状があり、足の動脈の触れが悪くなったといったことがありましたら、当科まで御連絡いただけましたら幸いです。また、形成外科と連携し下肢潰瘍に対して閉鎖陰圧療法を併用することにより、下肢切断を回避する取り組みも行っております。

今後とも何卒よろしくお願いたします。



## 地域医療支援センターのご紹介

地域医療支援センターの組織について、改めて、ご紹介いたします。

### 地域医療連携係

患者さんがスムーズに、当院や開業医、専門医療機関へ受診・入院できるように調整・支援を行っています。

例えば

- ・紹介患者さんの受診調整・大学病院等への転院調整・院外との診療情報のやりとり
- ・地域の医療機関と顔の見える関係づくり

### 医療福祉相談係（MSW）

外来・入院患者さん、家族が抱える経済的・心理的・社会的課題を一緒に考え、支援等を行っています。

例えば

- ・医療費や入院費が払えない・病気が原因で働けない・今後の療養先のことなどで悩んでいる
- このような課題を一緒に考えます

### 入退院支援係

カンファレンス等を通して、患者さんの情報を共有し退院に向けた取り組みを推進しています。

例えば、

- ・入院時退院支援カンファレンスの実施
- ・退院支援ミーティングの実施

#### 小児科休日当番日のご案内

4月 17、29

5月 4、22

6月 12

#### 脳神経外科輪番日のご案内

4月 2、3、9、16、17、23、29、30

5月 1、4、5、7、14、15、28、29

6月 4、11、12、18、25、26